

第5章 これからの下水道事業

1 基本理念

本町の最上位計画である「久御山町第5次総合計画」（平成28年3月）では、下水道事業の基本計画を「下水道施設の整備と維持管理の推進」、「下水道事業経営の健全化」としています。

また、京都府の「京都府流域下水道事業経営戦略」（令和3年3月）では、「都市の発展と住民生活を支える持続的な京都の下水道」を基本理念として掲げ、老朽化が進行する施設を効率的・戦略的に維持・強靱化し、地域の発展を支える基盤施設を構築するとともに、効率的な事業マネジメントと健全な経営に努め、持続可能な下水道事業を運営していくこととしています。

本町の下水道事業においては、今後、老朽管渠の修繕・改築を計画的に進めていかなければならないなかで、人口減少や節水機器の普及等に伴い使用料収入も減少する見込みとなっており、経営環境はさらに厳しさを増すことが予測されます。

しかし、このような状況においても、限られた資源を有効に活用することで、災害にも強く、いつでも安全・安心に使用でき、住民の快適な生活環境を守る下水道を、持続的に経営する必要があります。

そこで、本ビジョンでは、本町の総合計画や京都府流域下水道事業の計画との整合性を踏まえて、『安全・安心で快適な暮らしを支える持続的な下水道』を基本理念としました。

2 基本目標

本ビジョンでは、基本理念『安全・安心で快適な暮らしを支える持続的な下水道』を推進するため、「安全・安心」・「快適」・「持続」を3つの基本目標としました。

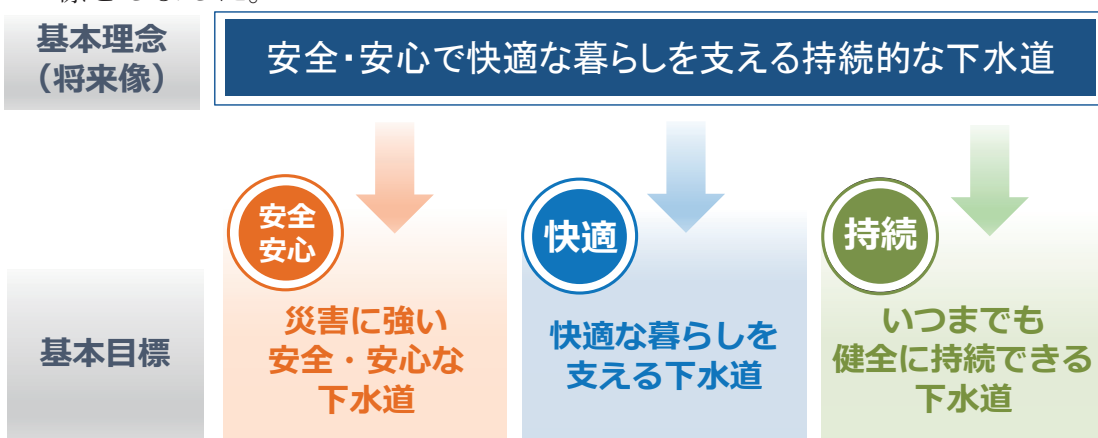


図 5.1 基本理念と基本目標の関係

なお、これら3つの基本目標を設定するにあたっては、2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の達成も考慮しました。

SDGsとは、誰一人取り残さない持続可能なよりよい社会を目指す、先進国も含め、すべての国が取り組むべき普遍的（ユニバーサル）な目標であり、目標実現にあたっては、各国政府のみならず、企業や地方自治体等、そして一人ひとりに至るまで、すべてのひとの行動が求められています。

本ビジョンの基本目標の考え方は、SDGsの目標6・目標9・目標11・目標13・目標14と共通するものであり、SDGsの達成に貢献するものです。

災害に強い安全・安心な下水道



災害が起きても必要な機能を維持または速やかに復旧する、強靱かつ安全・安心な、住民の暮らしを守る下水道を目指します。

快適な暮らしを支える下水道



公衆衛生の向上、生活環境の改善、公共用水域の水質保全により、住民の快適な暮らしを支えます。

いつまでも健全に持続できる下水道



今後予想される人口減少社会においても、将来世代に良好な資産を残し、いつまでも使い続けられる下水道を目指し、健全経営に向け取り組みます。

表 5.1 SDGs（持続可能な開発目標）の詳細

目標	アイコン	目標の詳細
目標6 〔水・衛生〕		すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
目標9 〔インフラ・産業化・イノベーション〕		強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
目標11 〔持続可能な都市〕		包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
目標13 〔気候変動〕		気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
目標14 〔海洋資源〕		持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

（出典：外務省「持続可能な開発目標（SDGs）と日本の取組」より）